

2021年11月29日 Vol.184

### アントレプレナー飛躍・成長の登竜門となる IPO

前号の本コラムで今年の IPO 銘柄数を 125 としたが実際には 12 月 29 日の Institution for a Global Society (4265・M) が加わり 126 銘柄となった。最初に訂正させて頂きたい。いずれにしても 12 月は IPO ラッシュであることに違いはない。昨年開催予定だったオリンピックが今年に伸びたこともあり、昨年に予定してきた IPO が今年に先送りとなり、それが一気に出てきた結果だとも指摘されている。1 月や 5 月の IPO がないので実質は 10 カ月での IPO で月平均は 12 銘柄余りとなり、それが 12 月に集中するというので今年は 33 銘柄が 12 月に IPO することになり、市場関係者は大わらわだろう。

さて、この時期話題となるのが英国 EY (アーンスト・アンド・ヤング・グローバル・リミテッド) が世界のアントレプレナー (起業家) に贈る賞である EY アントレプレナー・オブ・ザ・イヤーである。世界 60 か国、145 都市を超える国や地域を代表するアントレプレナーを表彰する制度で昨年はオイシックス・ラ・大地株式会社の高島社長が日本代表に選ばれたが、今年も全国 8 地区から上場企業 3 社の社長を含む 10 名のアントレプレナー日本代表候補が選ばれている。12 月 6 日 (月) 16 時から 17 時にはそのイベントがオンライン中継される予定でそれに先立って一般からの投票も 11 月 30 日まで受けられており、その結果が公表される予定となっている。

株式市場では多くの情熱的な企業経営者が、成長を目指して積極経営を推進。今年で設立 30 年のソフトバンクグループの創業者、孫正義氏はその典型だが、既に孫社長は 60 歳を超えており、まだ相変わらずやる気は満々とは言え、むしろ孫さんに続けとばかり積極的でユニークな若手の経営者に頑張ってもらいたいし、そうしたチャンスは広がっていることが励みになるだろう。アントレプレナー (起業家) にとって IPO は一段と飛躍するための登竜門であり、その機会が与えられてこそビジネスへの取り組みが活発となり、ひいては日本の経済にも大いに貢献してくれると期待される。

今回選定された上場企業経営の 3 名は札幌に拠点を置くファイバークラウド (9450) 猪又社長、大阪代表のさくらインターネット (3778) の田中社長、九州代表の LibWork (1431) 瀬口社長である。筆者は時々、瀬口社長と面談させて頂く機会があるが、熊本県山鹿市を拠点に、WEB 集客など、これまでの住宅企業にはないユニークなビジネスを展開されてきた熱血漢。熊本から福岡での展開を経て全国展開を目指しており、関東にも既に進出済み。直近では 3D プリンター住宅への取り組みについてもリリースされており、絶えず前向きなビジネス展開を指向。ぜひ日本代表に選ばれるよう期待している。このほかまだ上場はしていないが、未上場の若手経営者、学生ベンチャー経営者が選ばれており、今後の活躍に期待が寄せられる。これらの企業もおそらく IPO も視野に入っているに違いない。

(東京 IPO コラムニスト 松尾範久)